

Global Talk MIGA

2014年12月18日

今年のMIGA Talk を振り返って

奥村 準

明治大学国際総合研究所
客員研究員



東大法学部を卒業し通商産業省（現経済産業省）に入省。通商、エネルギー・環境関係等のポストを歴任し、退任後は、ユーラシアグループの参与、学生情報センターの特別顧問などを務めている。外国の新聞、テレビなどで、日本の政治・経済及び国際関係についてコメンテーターとしてしばしば取り上げられる。

本コラムの皮切りとして、今年4月19日に中国当局が三井商船の鉱石貨物船を差し押さえた事件を検討し、本件が純粋に商事法務案件であって何ら政治的意味合いを持たないという中国側の主張に基本的に賛成した。その後新たな案件は発生していないことは、私の意見が正鵠を射ていたことを強く示唆するものである。 評価：優

続いて、インドのナレンドラ・モディ首相が改革について連邦議会に強い圧力をかけることになり、しかもそれを下院における過半数を確保しないまま改革ができる票数を確保していると論じた。インドのある政府関係者にこのことを尋ねると、野党側も両院の合同会議という憲法上の手段があることを承知しており、そこではモディが過半数を確保しており、連立与党がその開催を要求すれば実際問題として大統領がその召集を拒否できないので、一般に考えられているより野党側がもっと前向きになる、という返事があった。モディはというと、これまでのところ立法を要しないか、全国統一の付加価値税のように国民会議派の支持があるように見えるものを推し進めてきた。だが、国民会議派も、今や他の与党と同じようにモディに対して非協力的になったようだ。そこでアナリストたちもやっと合同会議という選択肢に気が付いて、来年には対決がみられるかもしれないと言っている。私の方にはかなり先見の明があったように思うが、本当に信じるのはこの目で見てからだ。 評価：良上、ただし加点の可能性あり

第3弾のサイバー窃盗に関する米国のイニシアティブについては具体的な予測をしなかった。サイバーセキュリティは、米国にとって最も重要な国家安全保障上の懸念だとされたはずだったが、どのみち米国にはそれより緊急性の高いパブリックコミュニケーション上の諸課題がある。 評価：未修（訳していて気付いたのだが、「単位なし」とすべきだったか）

そのあと2回、米国に日本(より具体的には尖閣諸島)を守る用意があるかということを取り上げた。こここれまでのところ誰も侵略してきていないので、依然として仮定の話に過ぎない。本件は、12月18日にテンプル大学東京校(TUJ)で再び取り上げることになる。詳細については[こちらをクリック](#)。 評価：未修(ありがたいことに。なお、TUJでの討論会の録画が[同ウェブサイト](#)にアップロードされるので、ご関心の向きはどうぞ)

続いてロボットに関するエッセーで、私たち日本人が生き物でないものにも心を寄せるという文化ゆえにロボットをもっと優しく扱おうと昔から言われていることに対する反論を行った。その後まもなくして防衛省が研究開発計画でロボット技術を優先的に取り上げていること、さらに経って2015年度には「[高機動パワードスーツ](#)」開発を始めることを知った。 評価：B+ (事実関係を調べ尽くさず、したがって防衛省がすでにロボット技術に取り組んでいることを指摘しそこなったことにより減点)

戦闘が続いているのでコバニ/アインアルアラブの物語にはまだエンディングがない。それがハッピーエンディングであることを願うことにしよう。 評価：未修

最後は、ピュー研究所発信の、米国50州をそれぞれ一言で形容したデータポイントだった。申し訳ないことにおよそ予測と思しきものを一切しなかった。というわけで…単位なし

以上を以て、新年を寿ぎつつ忘年会シーズンを突き進んでいきたいと存じます。